

# こんなとき どうする？

小学校5年生

## I アクティビティについて

### ねらい

日常生活の中で起こりそうな場面のロールプレイを通して、身近にある差別や偏見に気づいたり、公平・公正の大切さを理解させたりするとともに、それを実現しようとする態度や心情を育てる。

### ◆◆◆視点◆◆◆

- ◎公平・公正
- 共感と連帯感
- コミュニケーション能力

### 設定の理由

この発達段階の児童は、社会を見る視野が広がり、社会生活に協力しようとする意識や善悪の判断力も高まり、公平・公正の大切さも分かるようになっていく。しかし、実際の行動においては、好き・嫌い、有利・不利などの基準で判断し、行動しがちなところも見られる。

そこで、日常生活の中で起こりうる場面を扱うロールプレイに取り組みさせることにより、差別や偏見の不当性に気づき、誰に対しても公平・公正に接し、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てたい。

### アクティビティの概要 (1時間扱い)

- 活動1 「こんなとき どうする？」を実施する。  
・ロールプレイを通して公平・不公平について考える。
- 活動2 解決策を考え、ロールプレイで発表する。  
・仲良くドッジボールができる解決策を考え、ロールプレイで発表する。
- 活動3 ふり返る。

## アクティビティの実際

- 準備するもの
  - ・ ロールプレイ「こんなとき どうする？」の台本
- アクティビティの進め方

### 活動1 「こんなとき どうする？」

- ① 5～6人のグループをつくる。
- ② 「こんなとき どうする？」の台本を配布し、誰がどの役割を演ずるかを決める。
- ③ クラスで1つの代表グループに「こんなとき どうする？」のロールプレイをやってもらい、クラス全員で見る。

＜ロールプレイ＞「こんなとき どうする？」

- A・B : 「ドッジボールの仲間に入れて。」  
 C : 「Aさんはいいけど、Bさんはだめだよ。」  
 B : 「どうしてぼくを入れてくれないの？」  
 C : 「だって、Bさんはへたなんだもん。」  
 D : 「そうそう、Bさんがいると、いつも負けるんだよな。」  
 E : (4人の様子を見てみないふりをして、遊んでいる)  
 B : 「いいじゃないか。入れてよ。」  
 C・D : 「だめったらだめっ。」  
 A・E : (傍観者となって話す様子を見ている)

### 活動2 解決策を考え、ロールプレイで発表する。

- ① 仲良くドッジボールができる解決策を各グループで考え、ロールプレイで発表する。
  - ・ ロールプレイの役割は5人の設定になっているが、6人の場合には、傍観者役を一人増やす。
  - ・ 各グループで考えた解決策をロールプレイで発表してもらおう。

### 活動3 ふり返り

- ① ロールプレイをふり返り話し合う。

＜ふり返りの留意点と発問例＞

発問例

今日の活動を通して、感じたことを発表してください。

- ・ この活動を通して、感じたことを発表させる。その際、教師が公平・公正について考える等の誘導はしないようにする。
- ・ 子どもから公平・公正についての感想が出てきたら、教師は、その感想を繰り返し、認めるようにする。

## アクティビティを指導するポイント

- ◇ 自分たちの体験を思い出させて意見を発表させるようにしていくとよい。
- ◇ ロールプレイの役割分担では、学級内の人間関係等に充分配慮する。
- ◇ ロールプレイ終了後は、話し合いに入る前に、「〇〇さん、Aの役は終わりました。ありがとう。」と、必ず生徒の本名を呼び、役割が終了したことを学級全員に聞こえるように告げるようにする。このことにより、役割と本人とをしっかりと切り離すことが大切である。

## Ⅱ 授業展開例

～小学校5学年「学級活動」における授業展開例～

時	学 習 活 動	教師の働きかけ
1	1 「こんなとき どうする？」の台本を受け取る。 2 「こんなとき どうする？」の台本をよく読む。 3 代表グループは、みんなの前でロールプレイをする。 4 仲良くドッジボールができる解決策を各グループで話し合い、ロールプレイで発表できるようにセリフ等を考える。 5 自分たちで考えた解決策をロールプレイでみんなの前で演じる。 6 学習をふり返る。 ・自分が感じたこと、考えたことを発表する。 ・これからのことについて考えたことを発表する。	○今日は、みんなに考えてほしいことがあるので、今から配る資料を見てください。 ○「こんなとき どうする？」の台本を全員に配布し、よく読ませる。 ○代表グループに「こんなとき どうする？」をみんなの前で演じてもらう。 ○仲良くドッジボールができる解決策を各グループで話し合わせ、ロールプレイで発表できるようにセリフ等を考えさせる。 ○各グループに考えた解決策をロールプレイでみんなの前で演じてもらう。 ○各グループで感想等を話し合い、「ふり返り」をさせる。 ○教師は、「公平・公正について、考えよう」「これからどのように行動したらよいか考えよう」等の誘導をしないで、子どもたちが感じたこと、考えたことから公平・公正に結びつくようにする。 ○友だちが思ったこと考えたことをしっかりと聞かせ、共有できるようにする。

## Ⅲ 資料

(1) ロールプレイ「こんなとき どうする？」の台本

＜ロールプレイ＞「こんなとき どうする？」

- A・B : 「ドッジボールの仲間に入れて。」  
C : 「Aさんはいいけど、Bさんはだめだよ。」  
B : 「どうしてぼくを入れてくれないの？」  
C : 「だって、Bさんはへたなんだもん。」  
D : 「そうそう、Bさんがいると、いつも負けるんだよな。」  
E : (4人の様子を見てみないふりをして、遊んでいる)  
B : 「いいじゃないか。入れてよ。」  
C・D : 「だめったらだめっ。」  
A・E : (傍観者となって話す様子を見ている)